

漢字の Input の一方式*

—熟語方式について—

穂 鷹 良 介**

漢字の Input をカナ文字を使って行なう方法について述べる。

電話で電報を送るときに冗長度を大きくして、その代わり確実に情報を伝達する方法がある。つまり、「イ」は「イロハのイ」、「タ」は「タバコのタ」という具合である。ここに述べるのは、漢字をこの方法によって表現する方法に似ている。

漢字には大抵熟語が2つや3つ関係している。たとえば、「関」という漢字は、「関係の関」と考えられるし、「横」ならば「横浜の横」となる。この方法を少し変更して、漢字をつぎのようにカナ文字を使って表現する。一般的な規則は、以下の例から明らかであろう。

「行」は「キ`ョウ. レツ」

「列」は「キ`ョウ. レツ」

「関」は「カン. ケイ」

「係」は「カン. ケイ」

などと表わす。

「関係」は「カン. ケイ。」

「行列」は「キ`ョウ. レツ。」

とズバリ表現すればよい。

一つの漢字をどのような熟語の一つとして考えるか

を定めるのは、いまはよりのインスピレーションクイズ式に、だれでも一番先に思いつくものを定めてやれば、パンチャー氏におぼえてもらうのは、さほどむずかしくはないと思う。また、人のよく考えつく熟語が、一つの漢字に対して複数個あったとしても、それを辞書のようなものに入れることができる限り、扱いはむずかしくはない。キーパンチャーの教育の面も、すべての漢字の配列をおぼえるより、楽ではなからうか。もし、筆者がどちらかの漢字 Input 方式を選択して、漢字の入力テープを作れといわれたら、迷わずこの熟語方式を選択するであろう。

問題は、この処理を行なうための価格的な面であるが、漢字の辞書をディスクにでも入れるとして、4,000字くらいの記憶に必要な容量をザット見積ってみる。大体二つの漢字からなる熟語を10文字のカナ文字で表現するとして、熟語間に全然ムダがないとして

$$\text{minimum } 4,000 \times 10/2 = 20,000 \text{ 字}$$

ムダがあったとしても

$$\text{maximum } 4,000 \times 10 = 40,000 \text{ 字}$$

である。一つの漢字に、あるいは複数個(2~3とおりの)熟語を許したとしても、この程度で間に合うのではないかと思われる。

こういう熟語方式の記憶は、心理学的にも楽だと思われるが、いかがでしょうか。

(昭和44年3月31日受付)

* On a method of input of kanji—a phrase method—, by Ryoauke Hotaka (Nippon Software Co. Ltd.)

** 日本ソフトウェア株式会社